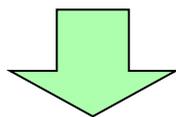


新潟市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年3月～25年3月)

【中心市街地を巡る状況】

- 江戸時代から日本海側有数のみなとまちとして発展
- 相次ぐ大規模店舗の郊外立地により中心市街地が衰退傾向
- H17に14市町が合併し人口80万人突破、H19には政令指定都市へ移行



○歩行者・自転車通行量(休日)の減少

H12: 190,883人

→ H19: 140,104人 (26.6%減)

○従業者数の減少

H8: 65,765人 → H18: 60,075人 (8.7%減)

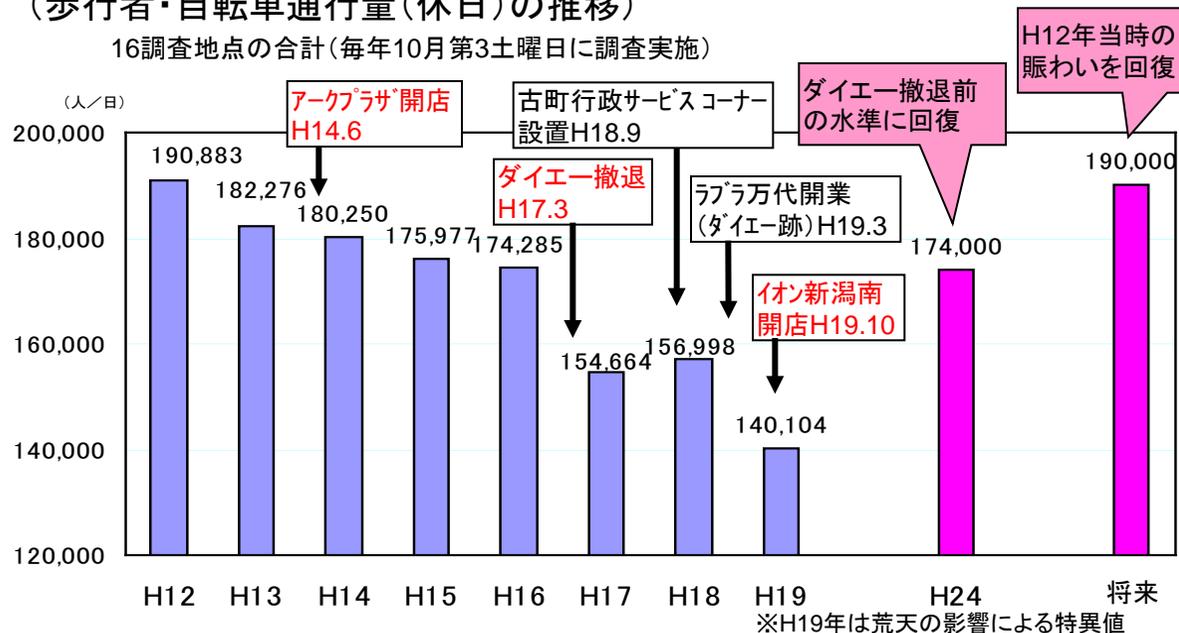
【目標】

目標	指標	現況値	目標値(H24)
賑わい・交流の促進	歩行者・自転車通行量(休日)	140,104人/日 (H19)	174,000人/日
	古町地区バス停利用者数(参考)	600万人/年(H18) 536万人/年(H24予想)	600万人/年 以上
まちなか居住の促進	居住人口	16,295人(H19)	18,300人
都市型雇用の創出	第三次産業従業者数※	32,691人(H18)	33,700人

※小売、飲食、サービス及び情報通信に限定

(歩行者・自転車通行量(休日)の推移)

16調査地点の合計(毎年10月第3土曜日に調査実施)



古町、万代及び新潟駅周辺の3つの地区の特長を活かした事業を推進するとともに、新潟駅周辺の重点整備とバス運行の強化、イベント実施などによる地区間連携施策を推進することにより、国際港湾と朱鷺メッセを核とした個性と魅力に溢れる国際交流拠点都市を目指す。

新潟市中心市街地活性化基本計画の事業概要

賑わい・交流の促進

- 魚市場跡地に地元の鮮魚等の「食」を県内外に広くアピールする「市民市場」を整備し、にぎわい空間を創出
- 国際コンベンション施設「朱鷺メッセ」において一定規模のコンベンションの開催経費を助成
- アーケード改修等に併せて商店街の特長を活かしたソフト事業を実施

上古町商店街



歩道拡幅やアーケード再整備とソフト事業(イベント、街の案内人、ペロタクシー等)による活性化

本町6商店街



丸行灯など和心が感じられるアーケードを整備するとともに、商店街が取得した空き店舗におけるテナントミックス等を実施

- 地下街や「やすらぎ堤(水辺)」等における市民パフォーマンス



市のシンボル萬代橋のもとでオープンカフェ&ジャズライブを実施



地下街に整備するイベント広場を活用し、専門学校の作品発表や若者パフォーマンス等を実施



都市型雇用の創出

- 情報通信関連事業を誘致するため3年間の家賃補助を実施(過去5年間で雇用1,500人創出)



- ミニチャレンジショップ「ヨリナーレ」から独立する際の开店資金補助



まちなか居住の促進

- 住宅と商業・業務機能を一体に整備することにより まちなか居住及びまちなかサービスを充実
- 居住環境の改善のためユニバーサルデザインや景観に配慮した公開空地の設計・建設費への助成



駅周辺再開発



西堀通地区まちなか再生

3つの地区の連携

- オムニバスタウンやレンタサイクル等による3つの地区の回遊性確保
- 古町地区と万代地区の連携による地区間シャトルバスの運行や共通駐車券の検討
- 「にいがた総おどり」など商店街全長に渡るイベントの実施



基幹バス「リゆうとリンク」



にいがた総おどり